「Ｋ」を誇りに　その１

２０１５年６月１９日から４日間、インターハイをかけた熾烈な関東大会が開催された。
場所は山梨甲府・小瀬長銀スタジアムである。
私が春高時代応援にいったのは２年時が宇都宮、３年時が上尾だったので、在学中に甲府はなかった。卒後も駒沢五輪公園や千葉、栃木はあるも、甲府はまだ行っていない。

はじめて甲府小瀬を訪れたのは１９９６年山梨インターハイの時（右写真）。
鳥海（４０回）と応援にきたのが初めてであった。
やはり蒸し暑かったのを覚えている。

また近年ではこの競技場で２００７年に高島佑太が５０００ｍＷで優勝を飾った縁起の良い場所。（左写真）
その優勝タイムは現・春高記録の２２分１６秒８８であった。

★関東３日目の朝
３日目は石上と応援に行った。
前日に竹村ＯＢ会長夫婦と飲んで士気を高め、早朝の新宿駅に。石上（３９回）と、あずさ号で甲府へ向かった。

小瀬に向かうタクシーの運転手さんが言っていた。「ここは山の天気そのものです。一度暑くなると高温多湿で、お客さんも汗だくになる・・・」と。また一昨年の豪雪の時は本当に恐怖体験であったそうで、町から物資、食品がなくなってパニックであったという。やはりニュースはおおげさな表現ではなかったようだ。災害は怖い。同時期に埼玉も雪害に見舞われたのだから。

３日日の小瀬は肌寒かった。長袖を持参してよかった。
春高のテントに行くと黒川先生、秋庭先生、安藤先生が歓迎してくれた。
前日の１５００ｍの様子を聞くと、北関東勢が過去最高のハイレベルな戦いをしているとの事。群馬勢、栃木勢がすばらしい仕上がりで８００ｍ～３０００ｍＳＣまでを席巻しているという。
男子１５００ｍでは３分４８秒７６の大会新記録をマーク。
男子５０００ｍも１４分１５秒８１の同じく大会新記録がマークされる。
８００ｍも１分５１秒５３と大会記録まであとわずかな素晴らしいレース。
この３種目とも完全に南関東を上回る盛況ぶりとなった。

そんな中、１１時５０分から男子５０００ｍＷが開始された。
春高の藤田は先の県選手権で高島の記録に迫る自己新記録をマークしてのぼり調子。安藤先生は６～７位入賞を狙うという。
スタート一線。
この種目で昨年すでに大会記録を出している春日部東のエースだが、なんと不調の様子。それを見て徐々に２位集団が詰め寄る展開に。藤田はペースが乱れるのを嫌って、下位で様子をうかがう。

やはり徐々についていけない選手が一人、また一人と遅れだす。
藤田の読み通りだ。

関東競歩は４位入賞がインターハイへの切符である。したがって４位争いはし烈を極めた。いく度も歩型注意をうけていく。藤田はじっとがまんの競技。
ほぼみな一度は注意を受けた。ついに藤田にも注意が。我々も冷や冷やだ。

失格者も出てきた。
順位も全く分からなくなる。
しかし藤田は上り調子！落ちてくる選手をどんどん食っていく！すばらしいペース。自己記録は出そうだ。７位か？・・・

結局４位狙いで争った選手が失格を受けて、藤田は６位入賞。そして８年前の関東の優勝記録でもある高島の春高記録を大きく上回って２２分０９秒６３をマーク。
堂々とした６位入賞であった。
競歩は急激なレベルアップを見せている。８年前の優勝記録では６～７位にとどまってしまう。（とはいえ高島が現在の環境、トレーニングを受けたら記録はさらに短縮するであろうことはいうまでもない。記録はトレーニング環境改善によるもの。これは陸上競技の宿命なのだ）

雨も激しさを増し、午後の男子３０００ｍＳＣの予選に緊張感が張り詰める。
他の中長種目決勝を見る限り、楽なレースであるはずがない。

★安定した青木
秋庭先生は言っていた。「１５００ｍは春高記録を出して予選落ちするはずだった。決勝まで走るとは、一本増えてしまった」・・と苦笑していた。
先述したように今年の１５００ｍ優勝記録は３分４８秒という超ハイペース。正直埼玉勢は入賞１名という押され気味の状況。

３０００ｍＳＣも推して知るべし。

予選２組がスタートした。１組の＋候補は９分３０秒前後。当然これをベンチマークとして、それ以上で７人くらいがゴールするであろう。

青木も飛び出さず、先頭集団は団子状態だ。
ラスト水壕を越えて佐野日大の二人が飛び出した。青木は４位あたりでゴール。結果は５位の着順通過であった。
やはり１組をみてのプラスで、拾われたのはすべてこの２組から。１組目で余裕のゴールをしてしまった７位付近の選手は残念な結果であった。

予選が終わったころ雨も止みだした。明日の決勝に備え、春高チームも早々に撤収した。

迎えた決勝は晴れ。蒸し暑い陽気であった。

おそらく９分１０秒台になるであろう優勝タイム通りに進み、トップは９分１４秒で、青木と走った佐野日大が１位２位独占。青木は４位で９分１６秒２５であった。この速報に我々は「ほっ」と肩の力が抜けた。そう、関東は６位に入ればいいのだ。通過が最大の目標。
いくら力があっても、「あっ！！」という間に７位、８位に落ちてしまうシーンを限りなく見てきた。全力を出すのはインターハイの予選レースでいいのである。

中長距離種目全体で、栃木勢圧勝を醸し出す情勢であった。
埼玉勢は各種目に入賞一人程度にとどまった。

★役目を終えた９０年代の記録
福田や黒川らの作った春高記録８００ｍ、１５００ｍ、５０００ｍ、３０００ｍＳＣ，そして５０００ｍＷ・・・これらはついにすべて塗り替えられた。
２０年ほどの間、後輩たちの挑戦をはねのけ、目標になってきた春高記録。

しかしこの数年で更新された春高記録も、後の後輩たちの目標となり、いつの日か「春高新記録！」と役目を果たし終える日がくるのだろう。

ベンチの中ではかわいい子供たちだ。

その２へ